

各位

2020年4月6日
株式会社 PR TIMES
取締役 経営管理本部長 三島映拓

PR TIMES より配信されました不適切なプレスリリースに関するお詫び

謹啓 平素 PR TIMES をご利用いただきまして、誠にありがとうございます。

この度、PR TIMES ご利用企業様の中に、刑法に抵触する可能性がある事業を展開されている企業（以下、当該企業）が含まれていたことが発覚し、2020年4月4日に当該企業の利用を停止いたしました。また、同企業のプレスリリースは第三者メディアに取材されたかに見える体裁で複数件が配信され、プレスリリース掲載基準に抵触するものとしてサポートデスクからも掲載取り下げを含め都度対応していましたが、残存していたプレスリリースも PR TIMES では取扱うことができないことを改めて確認いたしました。

適切に PR TIMES を活用して情報発表いただいている企業・団体の皆さま、情報源として取材活動にお役立っていただいているメディア・記者の皆さま、有用な最新情報として楽しんでいただいている生活者の皆さまへ、PR TIMES に対してご心配をお掛けすることとなり、誠に申し訳ございません。

PR TIMES は第一に信頼され得る企業発表情報の集合体であることが重要だと考えておりますので、本件の発生を弊社として重く捉え、今後の対策を講じてまいります。皆さまへご不安をお掛けしたことをお詫び申し上げますとともに、下記の通り経緯と原因、対応につきましてご報告いたします。

何卒、今後とも引き続き PR TIMES をご愛顧いただけますようお願い申し上げます。

謹白

記

1. 内容

弊社が運営するプレスリリース配信サービス「PR TIMES」において、2020年4月4日（土）11:00頃に、刑法に抵触する可能性がある事業を展開する企業1社のアカウントを利用停止いたしました。

2. 経緯

2019年8月30日 当該企業より企業登録申請
2019年8月31日 法人格と事業内容を確認、反社チェックを行ったうえで配信予定内容を確認し、本登録完了
2019年8月31日 1件目のプレスリリースを配信
2019年9月3日 掲載基準に抵触するため取り下げ対応連絡（翌日に取り下げ実施）
2019年11月19日 2件目のプレスリリースを配信（新会社設立について）、内容審査で掲載基準に抵触することに気付かず残存（本来であれば取り下げ対象）
2020年3月1日 3件目のプレスリリースを配信（新事業の開始について）
2020年3月18日 当該問題企業からの申し出により3件目を削除対応
2020年3月27日 4件目のプレスリリースを配信
掲載基準に抵触するため即時取り下げ対応、またログイン権限を停止
2020年4月4日 社内外からの情報提供により当該企業の事業が刑法に抵触する可能性があることを認知、さらに残存プレスリリースも掲載基準に満たない内容であったことを改めて確認
2020年4月4日 過去配信プレスリリースの取り下げ対応、アカウント削除対応を実施

3. 原因

残存した2件目の配信について、新規情報があるという点で掲載を行っていましたが、本来は取り下げべき内容でした。また、略称に他企業の名義を設定していたにも拘らず、3件目の配信時点でその略称が虚偽の申請であることの確認ができておらず、早期発見・対応につなげることができておりませんでした。また、ログイン権限の停止処理を行った際、過去の配信についても遡及してその時点で掲載停止とすべきでした。さらに、二回目の取り下げなど違反が顕著でありながら、社内の関連部門に情報共有されておらず、度重なる掲載基準への抵触があったにも関わらず適切な対処ができておりませんでした。

4. 今後の対応策

今後、同様の問題を発生させないために、①企業審査と②プレスリリース事後チェックの運用フローを改善し、不適切な内容の早期発見と厳粛な対応を徹底いたします。

以下4点の対策を実施いたします。

- ・ 刑法に抵触する可能性がある事業内容に関する社内周知と、関係する公的機関との連携強化
- ・ プレスリリース監視要員の増員と二重チェック体制の徹底
- ・ 利用規約への違反や掲載基準への抵触が複数回確認されたご利用企業様への厳格な対処の検討
- ・ 不適切な内容の可能性があるプレスリリースのアラート機能改善

弊社では本件について重く受け止め、PR TIMESの信用回復のため、社内教育の再徹底と再発防止に取り組んでまいります。また今後、悪質な掲載基準の抵触には、法的措置を含む厳正な対処を講じることも並行して検討してまいります。

5. 掲載基準につきまして

広報活動において、発表のスピード感は他に代え難い重要性を持つため、PR TIMESではご利用企業様が自らプレスリリースをタイムリーに配信できるシステムを採用しています。

一方で、ご利用企業様とそのステークホルダーとの関係性を毀損するような事態を防ぐため、プレスリリース掲載基準を設け、弊社スタッフが全てのプレスリリースに順次目を通し、プレスリリースとして公開するに適した内容であるか審査しています。不適切な内容を発見した場合には、速やかに内容訂正や削除など対処しています。さらに内容や結果の重さ、再違反の可能性などを勘案しましてサービス利用停止などの措置をとっています。

(プレスリリース掲載基準：<https://tayori.com/faq/89b604344ebb744dbba41f73d4134560c997a743>)

6. プレスリリースを配信いただくにあたって

プレスリリースは社会に向けた公式発表となりますので、事実に基づく発表者の活動を主体として配信いただくよう、お願いしております。私たちは人の行動や頑張りの結晶を、その想いを紡いで発表するのが、プレスリリースだと考えています。そしてその行動は他の誰かを勇気づけ、多くの人を前向きにすると信じています。

プレスリリースはあくまで「当事者が自ら公表する一次情報」として取扱われますので、第三者が取り上げたような体裁での表現は認められておりません。既にご認識いただいている皆さまへお伝えするのは大変恐縮ですが、改めてご留意いただけましたら幸いです。

この度は、皆様へご心配とご迷惑をお掛けし誠に申し訳ございません。改めて心よりお詫び申し上げます。今後もどうかPR TIMESをご愛顧いただけますよう何卒よろしくお願い申し上げます。

PR TIMES：<https://prtimes.jp/>

以上